

## 新党日本代表 田中康夫 質疑

2011/04/30(土) 10:55~10:59

### 第177回国会(通常国会)

### 衆議院 予算委員会

第一次補正予算(震災復興) 締めくくり総括一討論



さあ、信じられる日本へ。

新党日本

nippon-dream.com

○中井委員長 次に、田中康夫君。

○田中(康)委員 私は、国民新党・新党日本を代表し、平成二十三年度補正予算三案に賛成の立場で討論を行います。

地震、津波に加えて放射能。開闢以来の危機的事態に直面する日本は、被災者支援、エネルギーシフト、財源創出を初め、あらゆる点で新しい方程式を編み出さねばなりません。

今回の補正予算案は、こうした哲学と覚悟のもと、新しい社会的共通資本のあり方を日本国家が構築する上で必要な法律や予算を、今後可及的速やかに制定、執行していく間のつなぎ融資的性格の代物です。

今回の大震災では、家族や住居を失っただけでなく、多くの方々が職場や職業を失いました。阪神・淡路大震災との大きな違いです。

衣ならぬ意欲の意職住、すなわち、職業を得て

住居を得るべく、避難所生活から自律的に一日でも早く脱却するための環境設定として、世帯単位でなく一人一人の個人に半年間、支度金、ベーシックインカムを毎月手渡すべきです。赤ちゃんからお年寄りに至るまで分け隔てなく、毎月一定額の基本所得を支給するベーシックインカムの発想を被災地で実行に移すのです。

そのための今後の財源として、休眠口座の活用、百兆円規模の日銀直接引受国債、復興無利子国債の発行を、国民新党・新党日本は昨日の質疑でも提言しています。

真のクリーンエネルギーへのシフトも、すべての建造物への太陽光パネル設置義務づけに加え、火山大国にふさわしき地熱、用水路でのマイクロ水力、海の潮流の波力、そして風力。さらに、昨日提案の日本で発見された藻、オーランチオキトリウム、石油や天然ガスの主成分である炭化水素をつくり出すオーランチオキトリウムの実用化、導入を目指すべきです。

こうした中、筋のよくない芽出し予算は、今後芽の段階で絶つべきです。津波に見舞われた水田の塩分を取り除く除塩という名の土地改良は、新しい方程式の対極に位置する事業です。

年間二十ミリシーベルト近い被曝をする人は、約八万四千人の原子力発電所の放射線業務従事者でも極めて少ないのに、この数値を乳児、幼児、小学生に求めることは、学問上の見地からのみならず、私のヒューマニズムからしても受け入れがたいと、昨日、東京大学の小佐古敏荘さんが、法と正義にのっとっての原子力災害対策を訴え、内

閣参与を辞任しました。

世界に先駆け、科学を信じて技術を疑わずから、科学を用いて技術を超える、夢と希望の日本社会を構築する上で看過し得ぬ事実です。

見解の相違で片づけることなく、立法権、行政権、二つの強大な権限を有する内閣総理大臣の菅直人さんは、未来を担う子供たちへの甚大、深刻な影響を回避すべく、文部科学省、経済産業省、原子力安全・保安院、そして東京電力に対し、法令遵守の判断と行動、国民に対する正しい情報公開の徹底を首相命令として発すべきと強く申し上げ、討論を終わります。(拍手)

○中井委員長 これにて討論は終局いたしました。